



NO.37 2016.10

発行者 特定非営利活動法人 チャレンジド ステーション クジラ
196-0003 東京都昭島市松原町3-6-7 アートヒルズ105
法人: TEL/FAX042-542-7288 事業所: TEL/FAX042-569-6433
Email npo-kujira@9jira.com URL <http://www.9jira.com>

ようやくしのぎやすい季節となりました。8月5日～8月21日の17日間9月7日～18日までの12日間、4年に一度のオリンピック・パラリンピック競技大会がリオデジャネイロで繰り広げられました。日本選手の活躍は日本中に感動と勇気を与えてくれました。皆さんはどの種目、どの選手、どの場面が好きでしたか？印象に残っていますか？改めて、“あきらめないことの素晴らしさ” “感謝することの大切さ” “仲間がいることの幸せ” を実感しました。さあ、次はいよいよ東京です！

詩に寄せて・・・（相模原市の事件後に綴った自閉症の子を持つ神戸金史氏の詩を紹介します）

私は、思うのです。
長男が、もし障害をもっていなければ。
あなたはもっと、普通の生活を送っていたかもしれないと。
私は、考えてしまうのです。
長男が、もし障害をもっていなければ。
私たちはもっと楽に暮らしていけたかもしれないと。
何度も夢を見ました。
「お父さん、朝だよ、起きてよ」
長男が私を揺り起こしに来るのです。
「ほら、障害なんてなかったろ。心配しすぎなんだよ」
夢の中で、私は妻に話しかけます。
そして目が覚めると、いつもの通りの朝なのです。
言葉のしゃべれない長男が、騒いでいます。
何と言っているのか、私には分かりません。
ああ。
またこんな夢を見てしまった。
ああ。
ごめんね。
幼い次男は、「お兄ちゃんはしゃべれないんだよ」と言います。
いずれ「お前の兄ちゃんは馬鹿だ」と言われ、泣くんだろう。
想像すると、私は朝食が喉を通らなくなります。
そんな朝を何度も過ごして、
突然気が付いたのです。
弟よ、お前は人にいじめられるかもしれないが、
人をいじめる人にはならないだろう。
生まれた時から、障害のある兄ちゃんがいた。
お前の人格は、
この兄ちゃんがいた環境で形作られたのだ。
お前は優しい、いい男に育つだろう。
それから、私ははたと気付いたのです。
あなたが生まれたことで、
私たち夫婦は悩み考え、
それまでとは違う人生を生きてきた。
親である私たちでさえ、
あなたが生まれなかったら、
今の私たちではないのだね。

ああ、息子よ。
誰もが、健常で生きることはいできない。
誰かが、障害を持って生きていかなければならない。
なぜ、今まで気づかなかったのだろう。
私の周りにだって、
生まれる前に息絶えた子が、いたはずだ。
生まれた時から重い障害のある子が、いたはずだ。
交通事故に遭って、車いすで暮らす小学生が、
雷に遭って、寝たきりになった中学生が、
おかしなワクチン注射を受け、普通に暮らせなくなった高校生が、
囑望されていたのに突然の病に倒れた大人が、
実は私の周りには、いたはずだ。
私は、運よく生きてきただけだった。
それは、誰かが背負ってくれたからだったのだ。
息子よ。
君は、弟の代わりに、
同級生の代わりに、
私の代わりに、
障害を持って生まれてきた。
老いて寝たきりになる人は、たくさんいる。
事故で、唐突に人生を終わる人もいる。
人生の最後は誰も動けなくなる。
誰もが、次第に障害を負いながら
生きていくのだね。
息子よ。
あなたが指し示していたのは、
私自身のことだった。
息子よ。
そのままで、いい。
それで、うちの子。
それが、うちの子。
あなたが生まれてきてくれてよかった。
私はそう思っている。

父より



今回は、立川バス株式会社
 総務部課長代理 生沼 義康様に
 ご寄稿頂きました。

立川バス株式会社は、グループ会社の株式会社シティバス立川とともに、立川市を中心とした多摩地区で路線バスや高速バス・各自治体から受託しているコミュニティバスを運行している会社です。

特に立川バスは 1929 年に設立し、87 年もの歴史があり、バスの運転士を始め、事務職や整備士など 550 名程の従業員が勤務をしています。当社はバス会社として「安全・安心を第一に地域に貢献する」ことを常に考え、日々の業務に取り組んでおります。

そんな中、昨年 12 月に山口さんは、私たちの仲間として入社していただきました。現在、私が所属している総務部で一緒に仕事をしており、本社従業員の勤怠の入力・通勤費や交通費の清算業務・伝票の入力等の業務を中心に行っていただいています。入社したての頃は、社会人として働いたのが初めてということもあり、慣れない職場環境で業務を覚えることや理解することにとっても苦労していたと思います。最近では、業務を理解し、更に新たな仕事にも挑戦していただいています。

また、若い社員と食事に行ったり、お昼休みは会議室で何人かと食事をとったりしており、以前に比べてコミュニケーションが取れるようになり、だいぶ慣れてきた感じがしています。

当社は、山口さんの採用を通じて「クジラ」の市村さんにご縁を持つことができました。日頃より、担当の市村さんには、面談を始めとした業務に関するバックアップ等のご支援をいただき感謝しております。これからも、引き続きよろしくお願いいたします。

現在、山口さんは総務部の戦力として日々頑張っています。これからも「クジラ」の皆さまにご協力をいただきながら共に地域に貢献できればと考えております。



今年の最低賃金は・・・

平成 28 年度の地域別最低賃金時間額の改定額が答申されました。今後、関係労使からの異議申出がなければ、都道府県労働局長が決定し、10 月 1 日から改定される予定です。

＜改定後の賃金＞

	最低賃金円	引き上げ額円		最低賃金円	引き上げ額円
東京都	932	25	埼玉	845	25
神奈川	930	25	沖縄	714	21
千葉	842	25	平均	823	25

全国平均 25 円は平成 14 年以降、最大の引き上げです。また最高額の東京で、最低額の沖縄とでは 214 円の差があります。賃金アップが就労意欲向上に繋がりますように。



「ほく ゆめ 僕の夢」

野崎健太

私の勤務先は、サイゼリヤ武蔵小金井南口店です。働き始めて4年になります。JR 中央線「武蔵小金井駅」南口からすぐのビルの2階です。

仕事は調理（スパゲティ・鉄板料理・前菜など）で人手が足りない時は料理を運んだり、レジのフォローもします。今では、新しいパートさんに調理をおしえています。勤務時間は9：30～17：00で土日が休みです。夏休みはとても忙しかったです。

自分は、調味料は目分量でわかっているのですが、パートさんに細かくグラム数で伝えることが大変です。

入社の際は洗い場からスタートし、キッチン全体の仕事ができるようになったことがとてもうれしいです。もっと成長したいです。

仕事をする上で気を付けていることは①お客さんの前ではスマイル！②キッチン内ではやけどなどの危険があるので、声を掛け合うこと③ステーキの焼き方（ルックス）と盛り付けの向きです。

趣味はランニングで仕事で嫌なことがあった時はその日の夜に走ってストレス発散しています。休日は友人たちとおしゃべりや食事をしています。小さい甥と姪のお世話もしています。

夢は実家の近くで一人暮らしをすることです。
そのためにも体に気を付けてこれからもがんばって働きます。



ようやく実現できました！市役所実習

昭島市の障害福祉計画に位置付けられていながら未実施のままであった「市役所実習」が7月21日（木）～22日（金）の2日間ですがようやく実施できました。障害福祉課と昭島市地域支援会議就労支援部会が4月から準備を進め、都立青峰学園に生徒さんを推薦していただきました。市役所内の各課から仕事の切り出し、面接⇒実習⇒振り返りとスムーズに行うことができました。2日間でしたが、所内7課の中で仕事ができたと生徒さんの仕事振りを見て、市役所内で障害や実習に対しての理解が深まりました。緊張しながらも頑張ってくれた生徒さんに感謝！ 次年度も実施できるよう頑張らないと。市役所実習を足がかりに、市内の企業実習に繋げてきたいと考えています。

○仕事：折り（都市計画図・パンフレット）押印、パンフレット修正、郵便物の仕分等の事務軽作業
○勤務時間：9：00～16：00

※「就労支援部会」とは・・・・地域の障害者支援に関する課題の解決に向けて、検討や具体的な取り組みをする専門部会の一つで、就労に関する専門の部会です。



加納正 障害者雇用の見聞録

知事の職務と権限については、前知事の退陣と選挙戦で候補者をはじめ、マスコミ、評論家から「二元代表制だ」、「欧州某国の国家予算に匹敵する」など言われていた。都知事の権限は絶大で、その方向で、都民の暮らしや、都庁職員の仕事の仕方も変わる。

昔、都庁マンとして都庁で働き、議会对策等も経験させていただいた。歴代の知事の功罪、評価はいろいろだが、美濃部革新都政の時代は、高齢者の医療費無料化など福祉施策を重点に展開された。

今でも、癖で、都政、都庁のことを「都商事^{みやこしょうじ}」と口走ることも。

東京都心身障害者福祉センター（本所→新宿戸山町、多摩支所→国立市、以下「センター」と表す）も重点施策の一つで、障害のある福祉指導員が、当たり前前に働いていた。

身体障害者の手帳や愛の手帳交付等で接点のある方もいらっしやると思うが。センターの福祉指導員として働き、日本の福祉政策を提起し、すでに、退官して、後期高齢者や他界した人もるが、紹介し、記録にとどめたい。私の師匠達の足跡、仕事の仕方を遡る旅にお付き合

「今度生まれて来る時は聴こえて来てね」

8月末、N氏の偲ぶ会で、聞いた話ではあるが、昨年、N氏が他界した時、幼少期から見守ってきた肉親の実妹が掛けた言葉が「今度生まれる時は聴こえて来てね」であったと聞いた。N氏は、1939年静岡県で生まれ、1946年病気のため7歳で失聴し、静岡聾学校小学部に編入、5年生から竹細工の職業訓練を受けた。1958年に静岡聾学校高等部卒業したが、学力は小5レベルであった。「つんぼ」「低能児」と蔑まれた嘲笑の日々、でも彼は決してひるまなかった。

当時の障害児の教育が、「この子たちは、いずれ社会に出て、社会の底辺で生きていかなければいけない、馬鹿にされても耐えて、手に職をつけることで生きていける」（1980年代初めまで、障害児学級にも「学校工場方式」として教科学習より、作業学習を重視の考え方が占めていた。）

今日、特別支援学校の「就職100%目指します」などというスローガンを見ると、障害者の人権や教育を受ける権利が抹殺されていた時代の記憶が蘇ってくる。「就職することが全てで、就職できないことが、社会から離脱する、排除に繋がる思想は…いかがか」との指摘する声もあり、差別助長に繋がる場合もあり、教育の役割や教育権の保障の視点も必要ではないか。

N氏は、人並みの生活がしたと切に思い、「大学に行きたいと」相談するが、誰にも相手にされなかった。彼は3年間、人の3倍の猛勉強（習ったこともない、数学や英語も）で、21歳にして、地元の国立静岡大学文理学部に見事合格、入学を果たす。当時、障害児が国立大学に入学なんて稀有の時代でもあったが、自らの努力で実践し、学生時代は「日本縦断身障者実態調査旅行」と称し自転車旅行に出かけた（このころから好奇心旺盛であった）また、関東ろう学生懇談会を結成し活動。全日本ろうあ連盟の書記を経て、1964年東京都ろうあ者更生寮に指導員として就職。





1968年、センターに福祉指導専門職として採用された。センターは、1970年に、創設3年で若いスタッフが多く、新規事業に次々と挑戦をしていた。N氏の活動は、職場での仕事はもちろん、論文発表、全日本ろうあ連盟理事や地域の聴覚障害者団体の役員を歴任、兼務と同時に「聴覚障害問題研究会」なる私的勉強会を発足させた。仕事の関係でN氏と出会い、ご教示いただくことに…。

その、図々しくも、人懐っこい性格に魅せられ、勤務時間後、「聴覚障害問題研究会」に参加する。「手話がなぜ必要か…」「聴覚障害者の気持ち（心理）」などを学ぶことになる。「聴覚障害問題研究会」には、私のように仕事で障害者に関わっている、労働、教育、医療、福祉の専門分野の社会人、手話通訳者、福祉を学び始めた大学生などであった。

終わってから、必ず居酒屋で「反省会」である。N氏は「ろう者にしては、珍しく飲んべで、少しエッチで」が偲ぶ会参加者の挨拶での言葉で共通していたが、よく酒を飲んで、食べて、自分のペースで話す（手話を交え）、こちらは手話で話していると、酒も食べ物も進まなく（進めなく）割り勘負けも…。N氏は図々しくというか、ちゃっかりしているというか、居酒屋は自分の行きつけの店で「幹事様割引チケット」を持っていて、自分の分は幹事として只にして、そのうえ、店主と値引き交渉するのだから、社会で生きていく力、すごいね。



N氏は、好奇心が旺盛で、海外旅行が好きだった。特に中国が好きだった。25年くらい前に、共通の友人が中国の社会科学院に「労働基準法」策定のため招聘され、北京に居た。15人くらいのグループで上海から北京まで10日間くらいの旅行した時も、よく値切り交渉していた。

退官後は、大学、専門学校で聴覚障害者福祉を教え、いろいろの研究会、ろう者運動、日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会を立ち上げ、聴覚障害者の支援に大きく、貢献、活躍した。

「吃音障害の言語指導員」

N氏と同じ聴覚言語科S氏がいた。吃音障害という程ではないが、「どもる」。S氏に「どもって、言語指導ができるの？」と聞くと、「言葉を発せず、手話だから、手話はどもらないので大丈夫」と涼しい顔で、手話の研究の大家で手話辞典等を作っている。現在も聴覚障害者の活動を支援するとともに、視覚、聴覚の障害者に情報提供できるジョブコーチ制度の仕組みづくりにチャレンジしている。



「元気で明るい脳性まひの指導員」

職能科の、とにかく明るい脳性まひの障害者H氏。当時は自立歩行だったが、近年は車いすの生活に、持ち前の明るさと人懐こさ、面倒見の良い性格で、自治体で働く障害者の連絡会等結成、その活動に尽力されていた。退官後、民間の障害者能力開発施設の理事長として活躍。

「足でパソコン操作する両上肢欠損の指導員」

同じく職能科に、両上肢欠損のO氏がいた。先日逝去された、松山善三映画監督のサリドマイド上肢障害者に焦点を当てた「典子は、今」の「のり子さん」が熊本から上京し、ADLの訓練を受けたときの指導を行った。自身も先天的両上肢欠損であるが、パソコンは足指で打ち、普段の生活介助不要の人である。英語が堪能で、高次脳機能障害の家族等の相談、アメリカ視察など高次脳機能障害家族会の結成など大きく貢献されている。退官後は、大学で教えていたが、現在、悠遊自適の生活。

N氏を偲びながら、センターで自からの障害をものともせず、公務員としての職務の遂行、各界のオピニオンリーダーとして、かつ先頭に立って実践をされ、実績を残された、私の師匠達。今さらながら、全日本級の人たちから、ご教示いただいたことに感謝し、今後、誰のため、どちらを向いて、何のためにこの仕事をするのか、肝に銘じたい。（文責 加納）



ナイトサポート・ホリデーサポートお知らせ

就労をしている皆さまが会社の帰りや休日に気軽に相談できるように「ナイトサポートとホリデーサポート」を行っております。予約制ですので、必ず電話で予約をしてからご来所下さい。

(Tel 042-569-6433 まで)

ナイトサポート (17:15 ~ 21:00)	ホリデーサポート (10:00 ~ 16:00)
10月7日 金曜日	10月16日 日曜日
11月4日 金曜日	11月20日 日曜日
12月はクリスマス会を予定しています (後日お知らせ致します)	
1月6日 金曜日	1月15日 日曜日
2月3日 金曜日	2月19日 日曜日



NPO 法人 チャレンジドステーションクジラ賛助会について

NPO 法人 チャレンジドステーションクジラ賛助会へ多数のご協力をいただきましてありがとうございます。今後も一層の努力をして参りますので宜しくお願いいたします。
賛助会は随時受け付けております。

年	会	費	1 □ 2,000円
連	絡	先	042 (542) 7288
振	込	先	青梅信用金庫昭島支店
普	通	□ 座	店番 015 □座番号 0711599

特定非営利活動法人チャレンジドステーションクジラ 理事東條芳男